

【鹿児島県納税貯蓄組合連合会会長賞】

母から学んだ支え合うしくみ

始良市立帖佐中学校

三年 長谷 果季

「今日はかわいい双子の赤ちゃんのケアだったよ。」と仕事から帰ってきた母が嬉しそうに話してくれた。

私の母は訪問看護ステーションで看護師として働いている。母は大学病院の小児科で長年勤務していた経験を活かして、今も多くの子どもたちとその家族を支えている。主な仕事内容は、低出生体重児や医療的ケア児の健康観察、お母さんへの看護支援などだ。訪問先の子どもたちが元気に成長する姿やお母さんたちからの感謝が母のやりがいにもなっている。そんな母の仕事には、「子ども医療費助成事業」や「医療的ケア児等在宅支援事業」といった制度が関係しており、その制度には税金が使われていると聞いた。

私が住む始良市は、子ども医療助成事業として中学生までの医療費は無料となっている。これは始良市の子どもの健康の保持増進を図ることを目的としている。また、始良市医療的ケア児等在宅支援事業として、訪問看護の費用を市が負担している。これは、在宅の医療的ケア児の看護等を行う家族の休息時間の確保やきょうだい児と過ごす時間も大切にするために、訪問看護ステーションが家族に代わってケアを行うものだ。母は、「税金によってお金の負担だけでなく、看護をするお母さんたちの心と体の負担を軽くすることにもつながる。だからこそ、このような支援制度は最大限利用してほしい。」と話していた。母からこの話を聞いたときに、税金によって生活が支えられている人たちがいることに気が付いた。

今まで税金といえば、買い物のときに支払う消費税などあまり良いイメージを持っていなかった。しかし、税金の使い道について調べてみると、私たちの健康や生活を守るための医療、介護、年金などの社会保障費に一番多く使われていることが分かった。そして、私が支払っていた消費税もこの社会保障費に使われることとなっている。これまで良いイメージではなかった消費税だが、私が支払った分も含めて誰かの役に立っていると知り、嬉しい気持ちになった。

税金は、社会保障費だけでなく、私が行っている中学校をはじめとして、ごみ処理施設、交番、道路、信号機など身近なものにたくさん使われている。これらの公共施設や公共サービスを私たちに提供するために多くの費用が必要となる。この費用をみんなで出し合って負担しているのが税金であり、税金は私たちが社会で生活するための会費と言える。

私は母の仕事を通じて、税金が「支え合うしくみ」だということを学ぶことができた。そして、看護師として多くの子どもやその家族を支えている母のように、私も誰かの力になれるような人になりたい。